

需要想定システムについて

情報システム部
営業部

1 まえがき

需要想定業務における時系列整備、二次加工処理といった膨大な手作業業務を極力機械吸収して省力化をはかり、あわせて、より効果的な需要収入想定を可能とすることを主なねらいとして、「需要想定システム」を開発したのでここにその概要を紹介する。

2 システムの特徴

(1)マンマシン システム

計算機を対話型で使用するので、結果がすぐに得られる。さらに、その結果を検討し再度計算を行うといったフィードバック型処理ができる。

(2)図形出力と漢字表示

グラフィック・ディスプレイを採用しており計算結果のグラフ表示ができる。また、画面の表示に漢字を使用している。

(3)操作の簡便性

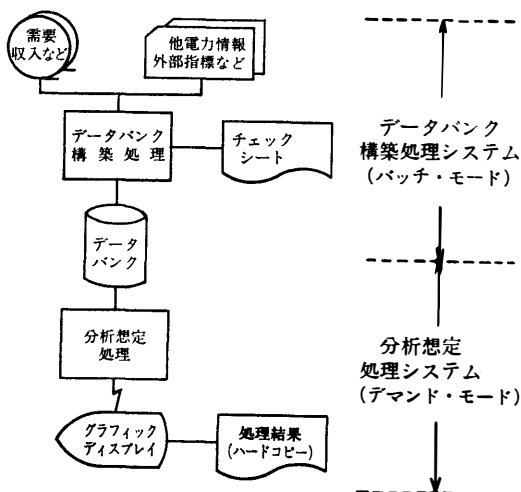
メニュー方式による処理の指示と、画面の階層的展開(77画面)によって、簡単に操作できる。

(4)セキュリティ機能

パスワードの採用で機密保持を図っている。

3 システムの概要

(1)システムの構成



第1図 システムの構成

(2)データバンク構築処理システム

営業統計システムの実績テープおよびカードから、需要分析想定に必要な諸元を抽出・編集して、データバンクを構築する。

(3)分析想定処理システム

データバンクをもとに、需要分析想定業務を、グラフィック・ディスプレイを用いて会話形式で処理する。主な機能を第1表に示す。

計算加工処理	季節調整計算、回帰分析、四則演算 時系列比較計算、需要数前月差想定計算 想定変数項目の算出、集計、全社積上げ 管理資料作成
表示処理	時系列表示、断面表示、構成比表示支店 (社)比較表示
保存修正処理	計算結果(想定、個別、中間データ)の 保存 異常値修正後データの登録・修正 想定データの修正・消去

第1表 分析想定処理の主な機能

(4)データバンクの内容

データバンクは

- ①需要収入諸元とその異常値修正後諸元；需要分析想定上必要な口数、電力量、収入等の諸元
- ②他電力情報とその異常値修正後諸元；①に同じ
- ③外部指標；GNP、生産量、普及率等の外部指標
- ④想定データ；想定値などの約8200項目の諸元から成っており、月・四半期・期・年度単位に最大11ケ年の実績値を保持できる。

4 あとがき

当システムによって、省力化、迅速化、即応化、想定の質的向上、視覚による理解・判断の補助等の効果が期待でき、需要構造の変化への対応にも寄与できるものと考えます。

(技術システムG)